



調布の歴史と武蔵野の道ウォーク

2022.12.11 12km 短縮 8.5km

行事参加中のコロナ対策

- ・マスクを着用し、密にならないよう間隔をあけて歩いてください。
- ・補食、お菓子等は自分用のみとし、他人にはあげないでください。
- ・バス内ではマスクを着用し、大声での会話は控えてください。
- ・バスの中での菓子等の喫食は控えてください。

参加者の皆様へ

- ・無断で単独行動をとらないようにしてください。
- ・主催者は、歩行中の事故について傷害保険に加入している他は応急措置以外の責任は負いません。
- ・スタート前には必ずトイレを済ませてください。
- ・原則として右側通行を遵守し、2列以内で歩きましょう。
- ・一般道を横切の場合は、役員の指示に従ってください。
- ・体調が悪くなったら遠慮せずに役員に連絡願います。

コース

往路 富士宮駅南口＝新富士IC＝海老名SA(WC)＝東京IC＝井の頭恩賜公園P(WC・体操)

6:30 7:45～8:00 8:50～9:10

ウォーク 井の頭恩賜公園P(スタート)・・・玉川上水沿い・・・井の頭恩賜公園・・・仙川平和公園(WC)・・・矢田部茶屋(昼食・WC)・・・

9:10 9:30 10:30～45 11:45～12:45

深大寺・・・龍源寺(近藤勇墓所)・・・近藤勇生家跡・・・武蔵野の森公園第2P(ゴール・WC)

13:00～15 14:10～20 14:25 14:45～15:00

復路 武蔵野の森公園第2P＝調布IC＝中央道石川PA(WC)＝八王子JCT＝新富士IC＝富士宮駅

15:00 15:30～15:50 17:20

* 短縮コースは、深大寺拝観後矢田部茶屋に戻り、バスでゴールの武蔵野の森公園第2Pへ移動し、調布飛行場等を見学する。

緊急時連絡

増田 敏幸 080-2612-4825

松井 隆子 090-9910-2192

次回申込 (バス内・昼食場所で)

新春ウォーク

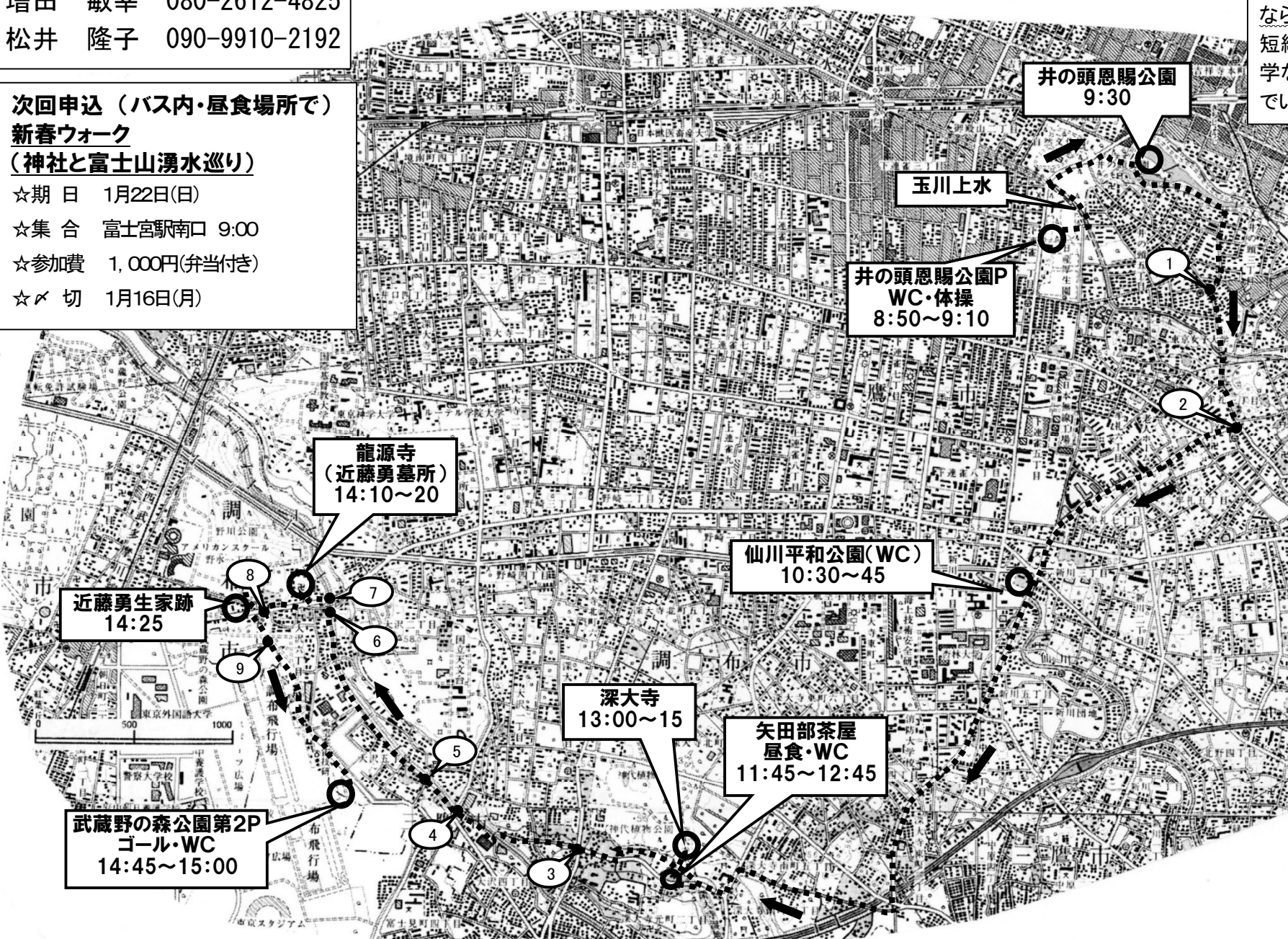
(神社と富士山湧水巡り)

☆期 日 1月22日(日)

☆集 合 富士宮駅南口 9:00

☆参加費 1,000円(弁当付き)

☆切 1月16日(月)



コースの概要

井の頭恩賜公園駐車場にてトイレ、体操を済ませてウォークスタート。歩き始めてすぐに玉川上水沿いの未舗装道路を歩き、井の頭恩賜公園に入ります。のんびり過ごしたいところですが、井の頭池を見ながら歩を進めます。小さな神社を過ぎたところで公園外に出て、井の頭公園通り、人見街道を進み、三鷹第一小学校を過ぎて歩道橋を渡るとすぐに仙川平和公園に着きます。ここには長崎の平和祈念像の小型版があります。像の作者北村西望は武蔵野にアトリエを持ち、三鷹市にも縁が深いとのことで、原型は井の頭恩賜公園内の北村西望彫刻館にあります。休憩後は原山橋で中央道を渡り、右折して再度中央道を渡って住宅街を進み、深大寺の近くの矢田部茶屋で昼食です(有名な深大寺そば)。昼食後は参道を通って深大寺に行きます。御朱印をいただく時間がありますので了解願います。午後は野川沿いの遊歩道を歩き龍源寺に行きます。近藤勇の墓所です。近くには生家跡もあるのでちょっとだけ寄ります。その後は調布飛行場を右手に見ながらゴールの武蔵野の森第2駐車場に向かいます。街中歩きではありますが、歩きやすい道です。ただ、自転車の人やランニングを楽しむ人が多いので邪魔にならないように基本は1列で歩いてください。

短縮コースの方は深大寺拝観後、矢田部茶屋の駐車場に戻り、バスでゴールに移動して調布飛行場の見学などをして時間を過ごしていただきます。調布飛行場は都営空港で、伊豆諸島に小型プロペラ機が飛んでいます。

井の頭恩賜公園

武蔵野市と三鷹市にまたがる都立公園。1917年(大正6年)5月1日開園、2017年(平成29年)に100周年を迎えた。湧水池として知られる井の頭池は、天正十八年(1590)、徳川家康の命によって江戸の飲料水確保のために作られた日本初の水道・神田上水の水源となった。池東端には上水取水口の石門が残る。西端の石井筒は「お茶の水」と呼ばれ、家康がこの水を江戸城のお茶の水に用いるよう命じたといういわれがある。「井之頭」の名は、寛永二年(1625)三代将軍家光がこのあたりで鹿狩をした帰途、池畔のこぶしの幹に小柄で「井之頭」と彫ったため、これが池の名となったと伝えられる。セケ所から清水が湧き出ることから「七井の池」と呼ばれたほど豊富だった湧水は昭和の中頃に枯れ、現在では深井戸の水を給水して景観を保っている。

深大寺

東京都調布市深大寺元町にある仏教寺院。天台宗別格本山で、山号は浮岳山。日本三大だるま市の1つ「深大寺だるま市」で知られている。隣接する東京都立神代植物公園は旧寺領であった。「深大寺」の名称は、仏法を求めて天竺(インド)へ旅した中国僧の玄奘三蔵を守護したとされる水神「深沙大王」(じんじゃだいおう)に由来していると伝えられている。奈良時代の733年(天平5年)、満功上人が法相宗の寺院として開創したと伝える。東京都では浅草の浅草寺(縁起によれば628年開基)に次ぐ古刹である。平安時代の859年、天台宗へ改宗する。江戸時代の1646年と1865年に火災に遭い、堂宇の大半を失っている。現在の本堂は大正時代の再建である。本尊は本堂に安置されている新冠阿弥陀如来像。他に、元三大師(がんざんだいし)像を秘仏として祀る。

深大寺そばはなぜ有名になったか？

深大寺蕎麦が有名になった理由については諸説ある。農家から奉納されたそば粉で作った蕎麦が、来山者の間で好評だったのが始まりという説や、三代将軍「徳川家光」が鷹狩の途中で立ち寄った際に、賞賛し広まった説、上野寛永寺の大明院法親王に献上し、賞賛された説などが有名である。